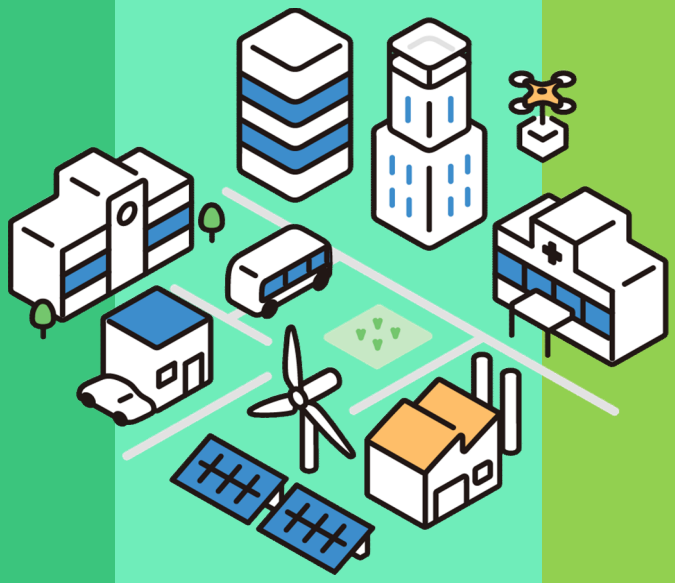
環境保全活動報告書

令和7年度（2025年度）



KSK湖国精工株式会社

http://www.kokokuseiko.co.jp

環境保全の歩みと取組み

〔環境方針〕

1. 地球環境にやさしい事業活動をする

2. 全従業員が力を合わせて、環境に配慮し、人と地球の共生をはかる

3. 環境関連法規制を遵守する

4. 環境マネージメントシステムの継続的改善に努める

5. 環境汚染の未然防止と環境負荷の低減に努める

環境保全の歩みと取組み

平成１３年２月２６日、大津市と［環境保全協定書］を締結する。

（目的）

次の世代により良い環境を引き継いでいくために、大津市・市民・事業者がそれぞれの役割と責任を認識し、快適で環境への負荷の少ない持続可能な街づくりに、自主的・主体的に行動するとともに協働して取組むことが求められている。

（活動の推進）

事業者は実施可能な範囲で自主的・主体的に環境保全に係る目標等を設けて環境への負荷の低減、資源の循環及びエネルギーの効率化、その他環境保全に係る活動を実施するものとする。

（環境管理体制の整備・充実）

環境保全活動を継続して推進するため、必要な組織を整備し、環境保全に関する方針及び目標を定め、その実施状況を点検しなければならない。

また、環境管理体制はISO14001に沿ったマネージメントシステムの構築また、市の定める手引きに従う整備により行うものとする。

（報告）

環境保全活動の実施状況について取りまとめ、原則として毎年1回、市に報告する。

主な環境取組テーマ

① 地球温暖化の防止

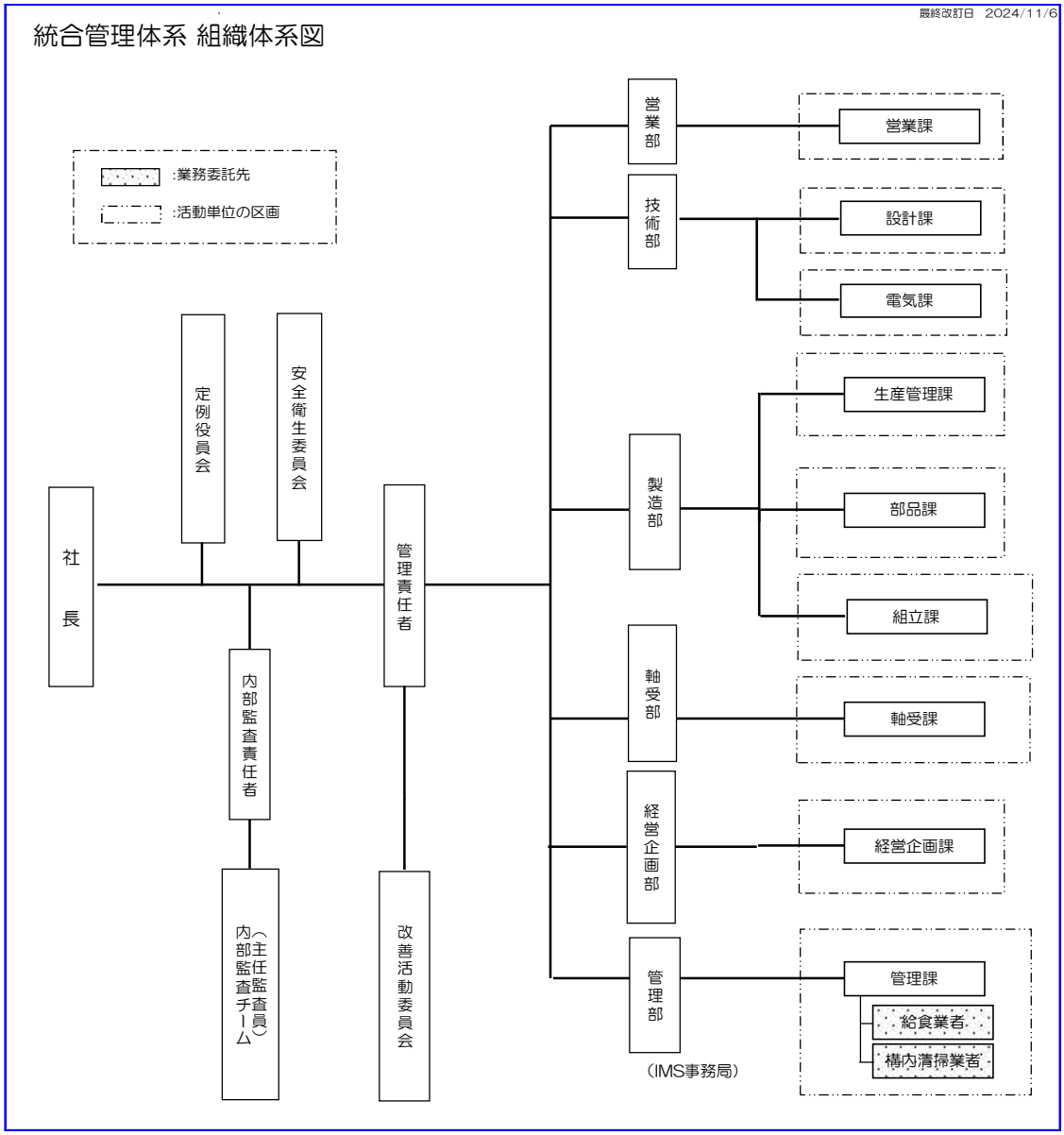
② 廃棄物の削減

③ 琵琶湖の汚染防止

④ 環境に関する地域社会への貢献

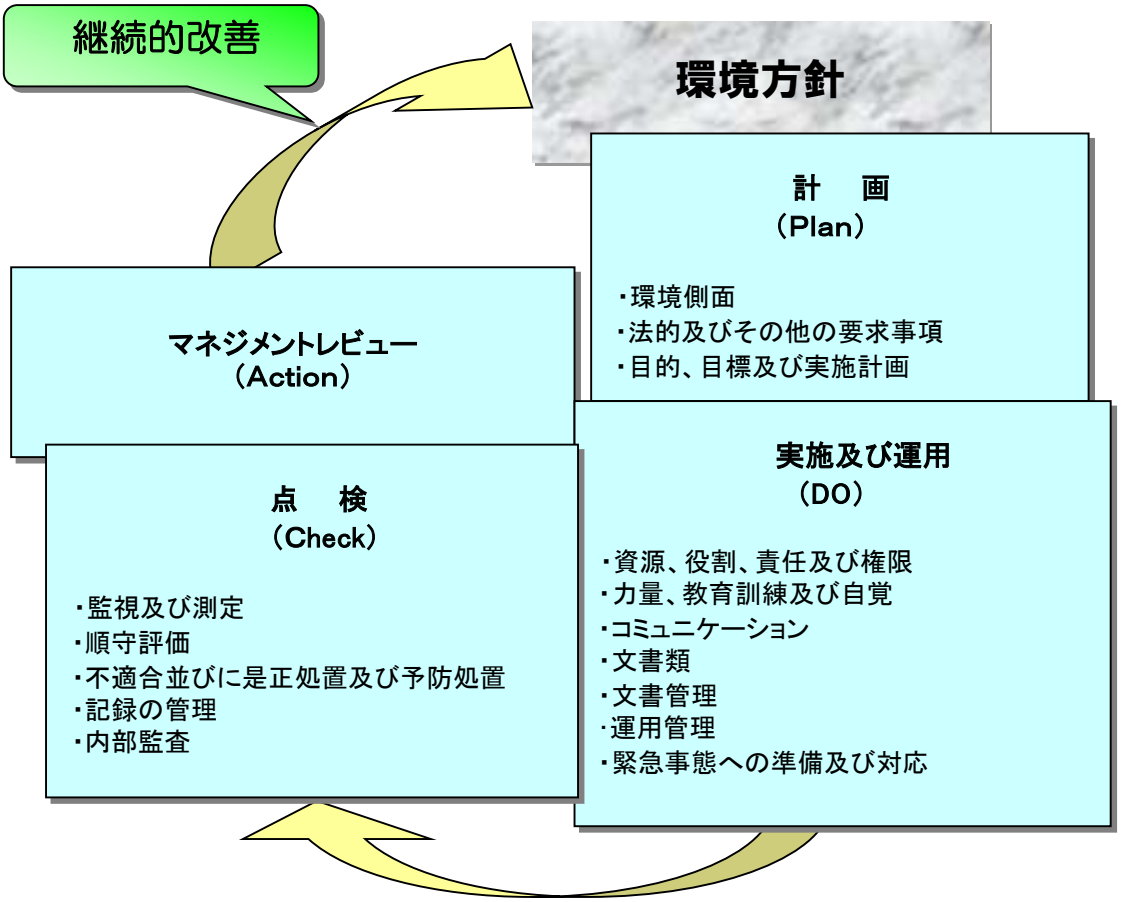
⑤ その他の取組み

環境管理組織体系図



環境マネージメントシステムについて

～P・D・C・Aサイクルによる、継続的改善の管理システム～



- P-D-C-Aのサイクルで構成されているシステムで、このシステムを運用することにより継続的改善を目指す。
- 汚染の予防と環境関連法規制の遵守が要求されており、これに対するシステム構築と運用を行なう。
- 環境方針及び目的・目標を定め、体系的な改善を行うために環境影響の原因である環境側面を抽出し、これの管理・改善を行う。環境影響を出してから対策するのではなく、発生源の管理・改善を目指している。
- 環境影響の著しいものを取上げ、重点的に管理・改善を行う。
- あらゆる組織に適用できるシステムで、システム導入は組織の自主的な活動により行なわれ、トップの方針に基づき、全員参加で環境負荷を低減するシステムである。

環境目的・目標　実施計画

75 期　数値目標

温暖化対策CO2削減	409.24ｔ-CO2/年
廃棄物削減	90%以上のゼロエミ
節電	2.73kwh/総工数
盛越川の清掃	1回

-環境負荷低減の中期的基本行動-

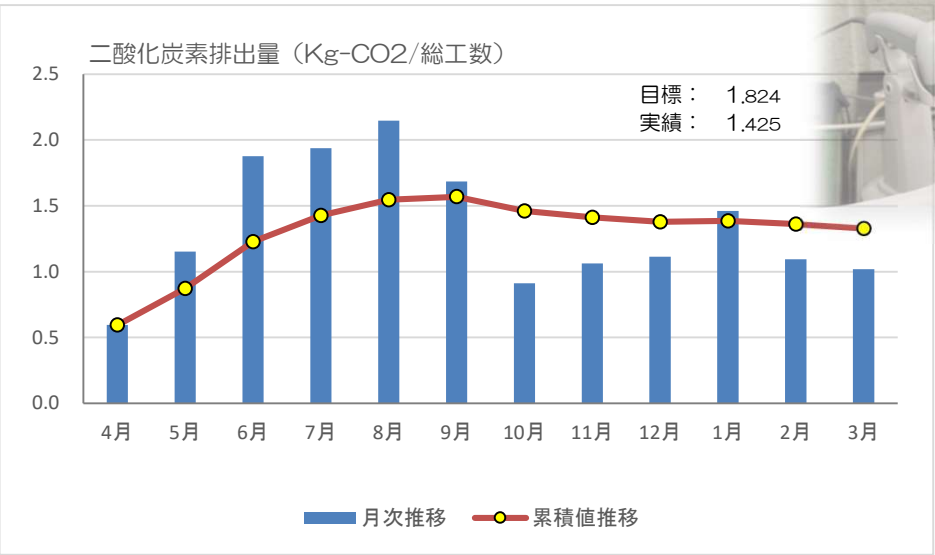
① 環境関連法規制の遵守
② 化学物質管理（環境・防災・安全への転換）
③ 油脂総量管理でリスク低減
④ ５Ｒの推進
⑤ 環境汚染の未然防止と負荷低減

☑ 社会全体が変革過渡期を理解しつつも、若年層の確保が厳しくなり、同時に法令改正対応が頻発するなかでの、業務見直しやシステム改修が続く状況

☑ 業況的には尻上がり受注により、前半よりは幾分良くはなったが、大きくなく、業界構造の変革や社会的な種々の課題問題と相まって、収益的には圧迫状況となっている。
事業継続を鑑み、組織改正・収益構造の見直し、少しづつ慣習からの脱却と若年層を迎え・定着を目指しつつも、工程後継者確保を継続中

地球環境にやさしい事業活動/全従業員が力を合わせて環境に配慮し人と地球の共生をはかる

前年比　削減目標　5%減



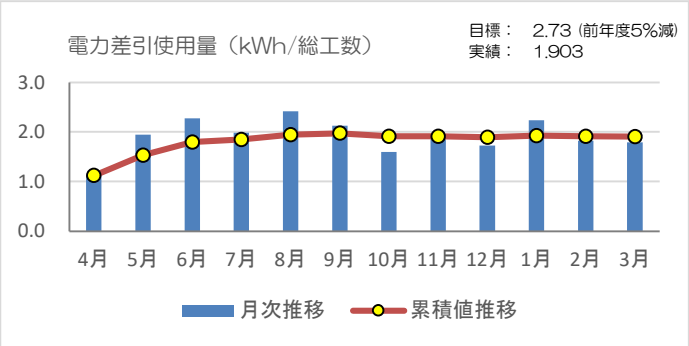
［二酸化炭素排出量の推移］

受注減も短納期対応であったが、
働き方改革の休出減継続で目標も達成

目標	409.24	t-CO2
実績	288.73	t-CO2

1）電力の使用量

		［発電相殺後］
令和7年度	464.375 kv	412,954kwh
令和6年度	465,604 kwh	414,275kwh
令和5年度	490,687 kwh	440,086kwh



（発電相殺込）

＊発電量（4月～3月）

令和7年度	51,421 kwh

＊　導入9年目秋時点で投資額回収済

2）都市ガスの使用量

既にガス空調を導入しており、起動分散化や清掃も
全般的に高温が多く、空調使用が増加

令和7年	49,763 ㎥
令和6年	47,480 ㎥
令和5年	44,550 ㎥
令和４年	40,464 ㎥
令和３年	42,097 ㎥
令和２年	35,738 ㎥
令和元年	37,531 ㎥

3）コピー用紙使用量

令和7年度	0.771 kg/売上百万円
令和6年度	0.582 kg/売上百万円
令和5年度	0.691 kg/売上百万円
令和4年度	0.818 kg/売上百万円

電子申告・インボイス関係で減らず、
売上も近くまで持ち上げたが届かず

廃棄物のゼロエミ化推進

排出そのものを減じるために在庫・調達管理の徹底・不良削減等に取り組んでいる。
前年に引き続き、棚卸し改善を進めている。併せて２Ｓ（整理整頓）、支給品管理強化、
残余品の返却確認など取り組んでいるがまだまだ慣習的なことから脱却中である。

総ゼロエミ率　目標：　90.0%以上　　実績：　93.0%

・電池回収について、専門業者と契約を結び直し、リチウム系等の選別を強化する
・製造用油脂類の転換も化学物質規制と並行して取組中
・製造工程から排出される包装袋をゴミ袋転用し、事務所や共用部分で142枚転換
・仕入先小切手支払い事務廃止　・納税事務のオンライン化推進

５Ｓ活動の標準化

５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）について、2021年度に手順マニュアル化を行い、以来「全国安全週間」に定例実施を開始している。
2025年度は、新規に26件の改善指摘箇所を得た。概ね1ヶ月以内にすべてを改善を進めている。
こうした定期的な活動を通して、維持することと同時に教育となる。

地域活動

隣接する盛越川の清掃を、6/20、11/7に実施。
2022年度から「ふるさと盛越川を愛する会」会長となり、当年度も継続して活動することができた。

環境関連法規制を遵守する/環境マネージメントシステムの継続的改善に努める

☑　「法規制等要求事項管理表」を作成し、適用される法規制やその変化点管理を継続
特に環境以外にも多くの法令改正が伴い、監視作業と今後に引き継いでいく資料とするために
定期的に評価している。（定例4月評価/法令加筆修正は随時）

☑　PRTR法対象の集計及び届出
質量１ｔ未満で届出対象外
対象成分含有油脂類の転換で　2024年度0.041t⇒2025年度0.0278t　と32%削減

☑　産業廃棄物管理票交付状況報告書
前年比　無機汚泥割合が減少も含油廃水割合が20%強増、木くずは61%減
報告書は　2026年4月提出済

☑　事業系廃棄物の減量・資源化及び適正処理に関する計画書
可燃物が増加傾向⇒木枠梱包材やパレットが減少し、簡易的な梱包になりつつある
報告書は　2026年5月提出予定

提案活動

各個人ごとに毎月提出するもので、それぞれができる改善をとおして効率UPやモチベーションUPなどに継続的に続けている。

計画	107.0	件/月平均	
実績	148.0	件/月平均	138%

小集団活動

若年層の現状把握・分析・初歩品質管理手法などの力量を小集団改善活動の形での学習会を1年間実施
活動2チームによる成果発表の実施
※産業支援プラザ　専門家派遣を活用

環境負荷の未然防止と環境負荷の低減に努める

緊急事態訓練　等

一級河川「盛越川」へ隣接しているため、水質の定期監視を自主的に継続している。
年に1度測定を実施し、大津市基準24項目基準で異常なし。これら以外の異常もなし。

又、一級河川に隣接し、琵琶湖へ直結していることからも特に新入者（新入社員や中途採用者等）を重点に油の保管場所や零したときの想定をして訓練をしている。
消防訓練を実施、毎回反省会を開催し、継続してリアリティを求めての改善を進める。

避難訓練・消火訓

新入社員油漏洩時訓練

←「救い帯」による救護訓練

6）環境負荷低減

- 化学物質管理が前年度に続き一層強化された法改正の中で、ＲＡの実施とＳＤＳの最新化を取組み。代替品への転換や種類の集約など引き続き取り組み中

半年ごとの作業環境測定としても各種、**管理区分1**を継続中

--　当年度の主な外部状況　--

＊ ＩＳＯ認証状況　＊
サーベイランス審査を受け、継続認証

＊ 2025年10月　　晴嵐小学校工場見学　18名

＊ 2025年12月　　客先防災監査　受審

＊ 2026年　2月　　客先BCP防災訓練　参加

--　2026年度の主な計画　--

＊ 令和7年6月
2015年度版　サーベイランス　受審
若年役職者の部門審査対応拡大

＊ 内部監査員の更なる養成
若年層の2015版切替推進、主任監査員を相互に入替えた体験学習

＊ 化学物質等　管理物件の見直し推進
化学物質管理の取組継続と各種資格者増員

＊ 電子申告の推進強化

＊ 改善活動の学習プログラム　シーズン2（生産性向上支援センター　竹本講師）

＊ 業務の整流化を取組み、古い慣習によるロスを見直し推進